

1 学校教育目標
教育目標・・・・智育・徳育・体育の全人教育による、未来を担う人物の育成 中・長期目標・・・① 目的意識の確立と一人ひとりの進路実現 ② 学習習慣の確立と学力の向上 ③ 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 ④ 特別活動・部活動等の充実による人間力の育成 【平成30年度重点取組テーマ】・・・生徒の主体性を引き出す教育活動の展開

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
○各種行事の運営・企画について、協働意識を高め、組織的、効率的に取り組むことが必要である。また、保護者と共に生徒の教育環境を整え、学校全体の教育力を高めていく必要がある。 ○進路ガイダンスや個人面談、オープンキャンパスへの参加、講演会の開催等は、自発的学習への動機付けとして一定の成果があった。また、「進路手帳」の活用により、自身の学習状況の振り返りを習慣化できた生徒もいるが、定着していない生徒もいることが課題である。 ○教育課程の見直しとともに授業改善に取り組み、大きな成果が上がっている。アクティブ・ラーニング等の研修成果をどのように授業改善に結びつけていくかが課題である。 ○総合的な学習の時間やLHRでの図書室の活用があり、図書の貸出数は昨年度並みであった。今後は、学習活動での取組も含めて読書活動の啓発に努め、貸出数をさらに増やしていきたい。 ○ホームページや防高メールによる情報発信を工夫したり、授業参観の機会を拡大したりすることを通して、保護者・地域の皆様により多くの情報を提供する。 ○「自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成」をテーマに指導に取り組んでいる。生徒指導に関する生徒や保護者のアンケートにおける肯定的評価は年々上昇しており、生徒の主体的な行動が徐々に形になりつつある。本年度は、更なる生徒の自発的な行動を引き出すための仕掛けと組織作りにより、生徒会活動や学校行事等の充実を図る努力を継続させたい。 ○進路実現のために必要な情報を収集、整理したうえで、有効活用するとともに学力向上のためのモチベーションへと繋げる必要がある。様々な進路研究活動と学力向上の取組が効率よくリンクするために、教員・生徒の共通理解のもと進められる指導体制の一層の充実に加え、ICT活用等、効率よい指導体制への変換をさらに進めていく必要がある。 ○人間関係形成や人間力向上を図るためにも、体育的行事や部活動への参加を積極的に推奨し、コミュニケーション能力の向上や豊かな心の育成に取り組むことが必要である。生徒の健康意識を高めるための健康教育や保健指導を継続実施しているが、生活習慣の改善や受診率の大幅な向上につながっていない。生徒が興味・関心を持つ内容の検討や情報発信のさらなる工夫が必要である。 ○生徒の人権意識が向上するように努めるとともに、教育相談体制の充実を図り、様々な問題を抱えている生徒に対して、教職員・スクールカウンセラー・保護者の連携をより深めていく必要がある。 【衛生看護専攻科】 ○低学年からの看護師国家試験を見据えた指導により看護師国家試験全員合格を継続できている。年々難化しているため、その動向を踏まえ指導の強化を図っていく。また、看護の思考力や判断力を問われる問題が多いため、実習指導の充実を図り思考力の向上に努める。 ○近年、県外へ就職する生徒が増える傾向がある。県内に就職した卒業生との交流機会をもつなど、県内施設への就職を見据えた進路指導を行うことが必要である。 ○低学年からの専攻科に対する意識向上に向けた指導の実施や、また専攻科進学後の学習状況や進路意識、適性を踏まえた指導などきめ細やかな支援をしていく必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
○学校行事の円滑な運営とPTA等との連携強化 ○「自発的な学習」や「学力向上」につながる取組の充実と指導内容・指導方法の研究 ○図書情報の積極的な発信と図書館運営のさらなる充実による利用の促進 ○ホームページや防高メールを活用した情報発信の充実と授業公開の改善による学校参観の機会拡大 ○規律ある生活習慣の確立と自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成 ○進路研究活動に基づく質の高い自発的学習活動の支援の推進と充実 ○体育的行事や部活動への積極的参加。生徒の健康意識や生活習慣の改善につながる健康教育の充実 ○生徒の人権意識の向上の推進と生徒が抱える諸課題の未然防止の視点を重視した教育相談体制の充実 【衛生看護専攻科】 ○進路実現に向けた指導の充実と社会人基礎力を身に付けた生徒の育成

※ 関係者評価 A：取組が優れている B：取組がよい C：取組がおおむね行われている D：取組に改善が必要である

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	自発的学習を促す指導の工夫と実践	進路目標を早期に設定させることにより学習意欲を高め、家庭学習や自主学習の定着を図る。	4：90%以上の生徒が、自発的な学習に取り組んでいると回答 3：80%以上の生徒が、自発的な学習に取り組んでいると回答 2：70%以上の生徒が、自発的な学習に取り組んでいると回答 1：70%未満の生徒が、自発的な学習に取り組んでいると回答	1	・肯定的評価をした生徒の割合は67.8%で、例年同様、保護者の76.9%よりも評価が低い。肯定的評価の割合は、ここ数年上昇しているが、今年度は保護者のみ減少している。 (前年度：生徒67.5%、保護者81.0%) ・キャリア教育としての進路講演会や卒業生講演会、オープンキャンパスへの参加等、学習意欲を喚起する取組の充実や、学年ごとの進路ガイダンスや個人面談の充実など、自発的な学習への動機付けに積極的に取り組んだ。 ・学習習慣の定着を図るために、朝学や週末課題などの取組を行っているが、自宅以外での学習も含めた自発的な家庭学習はまだ不十分である。	・自分の将来の目標があれば自然に勉学に力が入ると思いますので、早く人生計画ができるようにしてほしいと思います。 ・本人の自主性の問題であり、なかなか難しいと思います。宿題が多いとやらされ感になり、本人の目標設定もからみず。 ・しっかりと対応されていると思います。しかし、より一層の進路ガイダンスや個人面談	C

					<p>の充実が求められるように思いますが・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己評価が低い（不安で自信がない）ことが主体性や自発性の低さにつながっているのかもしれませんが。課題や塾などの“やらされた感”もあると思います。 		
	学力向上のための指導内容・指導方法の工夫と改善	<p>研修会への参加や研究授業などに積極的に取り組み、「主体的な学び」を意識した学習活動の充実を図る。</p>	<p>4：90%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 3：80%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 2：70%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 1：70%未満の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価をした生徒の割合は89.1%、保護者は89.7%と、両者とも90%を若干下回る評価となった。（前年度：生徒90.1%、保護者90.8%） ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した手法を積極的に取り入れるなど、授業改善に取り組む意識が高まり、生徒の学力向上に結び付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組んでいたと思います。 ・上記に関連した内容ですが、学校が学習指導に積極的に取り組んでいる分、生徒が受身的になっているのかなと思います。 	B
	読書・図書活動の充実	<p>読書の魅力や必要性を生徒に喚起し、学校図書の貸し出し数の増加をめざす。</p>	<p>4：図書貸し出し数が、昨年より5%以上増加 3：図書貸し出し数が、昨年とほぼ同じ 2：図書貸し出し数が、昨年より5%以上減少 1：図書貸し出し数が、昨年より10%以上減少</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会で図書だよりを発行し、図書の広報活動に努めた。進路指導と連携して小論文作成に役立つ図書を購入し、進路指導室に分置している。 ・1年生は夏季課題の読書レポート作成のため、様々な分野の新書の貸出があったが、2、3年生はほとんどなかった。新聞リレーにより、新聞を読む習慣は定着してきた。 ・今年度の図書の貸し出し数は、昨年度よりも低くなっている。（年間で800冊程度になる見込みである） 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書をゆつくりできる時間が今の生徒に少ないのでは。ゆとりがだんだんなくなっているように思います。 ・最近の子どもはスマホで小説を読んでいるのでは？図書の貸し出し数以外の評価基準や活動があってもよいと思います。 	C
生徒指導	規律ある生活習慣の確立と自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成	<p>身だしなみ指導・交通安全指導など「声かけ運動」を継続するとともに、遅刻事後指導を通じて時間厳守の徹底を図る。</p>	<p>4：90%以上の生徒が、基本的生活習慣を身に付けていると回答 3：80%以上の生徒が、基本的生活習慣を身に付けていると回答 2：70%以上の生徒が、基本的生活習慣を身に付けていると回答 1：70%未満の生徒が、基本的生活習慣を身に付けていると回答</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価をした生徒の割合は90%で昨年度より上昇し、達成度も4に達した。（昨年度：89.9%、達成度3） ・制服の着こなしについては、継続指導が必要である。 ・不注意による遅刻者数は、月平均4.4人（12月末現在）で、昨年度に引き続き少ない人数を継続できている。（昨年度同期月平均4.9人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の基本ですので守っていききたいことです。 ・基本的生活習慣について、生徒はきちんとやっていると思っているが、先生方の視点とのミスマッチがおきている（保護者は両者の中間）。先生方の求める到達点を明示されてはどうか。 	A
		<p>全校集会・学校行事の機会を捉え啓発するとともに、登校指導や校内巡回指導を増やし、規範意識の向上に努める。</p>	<p>4：90%以上の生徒が、校則やルールを守っていると回答 3：80%以上の生徒が、校則やルールを守っていると回答 2：70%以上の生徒が、校則やルールを守っていると回答 1：70%未満の生徒が、校則やルールを守っていると回答</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価をした生徒の割合は95.7%で高評価を得た。（昨年度：生徒95.9%） ・防府駅からの登校時の通行マナーについては改善された部分もあるが、地域住民に迷惑をかける状況が数件発生した。また、自転車の運転マナーについて数件の苦情があった。 ・交通事故の報告件数は12月末現在8件と昨年度より増加している。すべて自転車と自動車の接触事故である。（昨年度同期5件） ・校内での携帯電話の使用に関して、20名（12月末現在）の生徒に特別に指導を行った。（昨年度同期35名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒もよく理解していると思われます。 ・校則やルールは保護者や生徒の95%ができており、先生方も成果を感じておられるようです。社会的に見たときに必要とされる規範とのすりあわせもあればと思います。 	A
		<p>生活アンケートや個人面談などを通じて、いじめの早期発見や未然防止に努めるとともに、いじめを絶対に許さない雰囲気づくりに努める。</p>	<p>4：90%以上の生徒が、いじめやいじりなどの行為がないと回答 3：80%以上の生徒が、いじめやいじりなどの行為がないと回答 2：70%以上の生徒が、いじめやいじりなどの行為がないと回答 1：70%未満の生徒が、いじめやいじりなどの行為がないと回答</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「全くあてはまらない」と回答した割合は、1年生90.8%、2年生91.9%、3年生90.6%である。ほとんどの生徒は、互いを認め合い、他者を尊重して学校生活を過ごしていると思われる。 ・いじめやいじりの発生0をめざすため、未然防止の視点を持ち、いじめを許さない雰囲気づくりに努めなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒も大切なことと考えていることですし、絶対にあってはならないことですので協力していることでしょうか？アンケートの自由記述にありましたが本人たちに悪意がなくても聞く側が嫌な思いをすることがあるという理解が必要だと思えます。 	A

	生徒が相談しやすい教育相談体制の確立	生徒情報の収集や情報共有に努め、様々な問題を抱えた生徒が、教員やスクールカウンセラーに相談しやすい教育相談体制の充実を図る。	4 : 90%以上の生徒が、学校（教員、スクールカウンセラー）に相談することができると思うと回答 3 : 80%以上の生徒が、学校（教員、スクールカウンセラー）に相談することができると思うと回答 2 : 70%以上の生徒が、学校（教員、スクールカウンセラー）に相談することができると思うと回答 1 : 70%未満の生徒が、学校（教員、スクールカウンセラー）に相談することができると思うと回答	1	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価をした割合は、生徒65.8%、保護者79.4%（昨年度生徒67.9%、保護者80.7%）となっている。生徒、保護者共に割合が下がっている。 普段から、生徒理解と情報共有を密にし、個々の生徒の状態に応じた適切な声かけや支援を実施することをさらに強化していく。また、校内教育相談研修によって教員の相談対応スキル向上に努め、生徒にとって相談しやすい体制づくりに努めなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が相談できるとは思いませんが、何かの時には相談しやすい場所があるのは必要です。 日頃の生徒との人間関係の問題、生徒の問題の種類もからんできます。 かなり努力されていることがうかがえます。“生徒にとって”相談しやすい体制づくりも必要と思います。 アンケート結果からは、教員は努力しているが、生徒側の認識が低く、ミスマッチが起きています（保護者は中間）。日頃の先生方の取組に加えて、ピアサポートなど生徒間の関係性への取組等もあればと思います。 	C
進路指導	学びの質を高める進路指導	進路講演会・進路指導通信などを通して、適切な内容の情報提供に努め、進路意識を高める。	4 : 90%以上の生徒が、進路講演会や進路指導通信等が役立っていると回答 3 : 80%以上の生徒が、進路講演会や進路指導通信等が役立っていると回答 2 : 70%以上の生徒が、進路講演会や進路指導通信等が役立っていると回答 1 : 70%未満の生徒が、進路講演会や進路指導通信等が役立っていると回答	3	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価をした割合は、生徒88.8%、保護者89.1%で、いずれも昨年度より若干減少した。（昨年度、生徒89.7%、保護者90.4%） 外部講師を招いての学年別進路講演会や小論文講演会のほか、希望者対象で大学の担当者を招いての大学・学部説明会や2年生対象に2回の出前講義を行った。 生徒向けに年6回、保護者向けに年2回の進路指導通信を発行し、その時期にあった進路情報を提供するとともに、進路意識の高揚を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 詳しい進路情報は生徒に必要です。これが希望の進学達成になりますので本気で取り組んでほしいと思います。 工夫され、努力されていると思います。 集団に向けた情報発信を一人一人の生徒が自分の関心・興味→進路選択へと結びつけて考えられるような個別指導がセットになればと思います。 	B
		模試分析の結果を元に、学習方法の改善についての情報を提供し、学習の質を高める。	4 : 90%以上の生徒が、進路選択に関する情報提供が十分に行われていると回答 3 : 80%以上の生徒が、進路選択に関する情報提供が十分に行われていると回答 2 : 70%以上の生徒が、進路選択に関する情報提供が十分に行われていると回答 1 : 70%未満の生徒が、進路選択に関する情報提供が十分に行われていると回答	3	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価をした割合は、生徒87.8%、保護者83.4%で、いずれも昨年度とほぼ同じ評価値である。（昨年度、生徒87.9%、保護者83.7%） 外部専門家を招き、学年別に模試結果分析会を開催し、結果の分析を行うとともに、以後の学習・進路にかかわる指導方針について協議した。教員間の連携を取りながら共通認識を深めることで、生徒個々の学習方法の改善に向けての情報提供に当たった。 レベル別模試を実施し、その指導過程も含め個々の進路目標に適した学習評価ができる体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の指導が生徒によく受け入れられるようにと思います。 アンケート結果からは生徒は先生方が思っているよりも情報提供に満足しているようです。上記と同様に先生方の知識を一人一人の生徒にどう落としこんでいくかだと思っています。 	B
健康教育	積極的な健康教育の推進	学校保健活動の啓発に努め、学校全体の健康意識の向上を図る。	4 : 90%以上の生徒が、健康に関する指導やサポートが十分に行われていると回答 3 : 80%以上の生徒が、健康に関する指導やサポートが十分に行われていると回答 2 : 70%以上の生徒が、健康に関する指導やサポートが十分に行われていると回答 1 : 70%未満の生徒が、健康に関する指導やサポートが十分に行われていると回答	3	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価をした生徒の割合は81.9%で、年々増加している。（昨年度78.3%） 生徒が抱える健康課題の解決につながるような内容や講師を十分に検討し、1年生は性について、2年生はメンタルヘルスについての講演会を開催した。また、生徒向けの救急講習を行った。 保健だよりや生徒保健委員会の活動を通して、健康・安全に関する情報発信を継続して行っているが、より多くの生徒が自らの健康に関心をもつよう、さらなる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人たちが自分の身体状態に関心はないように思われますが、とても大切なことですので、生徒自身がよく考えてみてほしい。 生徒だけでなく、保護者のニーズも踏まえた講演会があってもいいかなと思います。 	B
		心身の健康を適切に管理し改善していく能力の育成	う歯治療勧告の強化や学校歯科医との連携による保健指導により、生徒の健康意識を高め、受診率を向上させる。	4 : 対象生徒の受診率90%以上で、生徒の健康意識が大幅に向上 3 : 対象生徒の受診率80%以上で、生徒の健康意識がやや向上 2 : 対象生徒の受診率70%以上で、生徒の健康意識があまり向上せず 1 : 対象生徒の受診率70%未満で、生徒の健康意識がほとんど向上せず	1	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の結果、「要受診」となった生徒の受診率は、歯科63.3%、視力73.3%であった。歯科受診率は、高校生では69%であるが、専攻科生は20%と低く、専攻科を対象とした保健指導を充実させる必要がある。 未受診の生徒への個別指導や治療勧告を継続的に行うとともに、学校歯科医と連携し歯科保健指導を行った結果、昨年度より歯科の受診率が向上した。（昨年度54.6%） 	<ul style="list-style-type: none"> 健康で毎日を過ごせることが生活の一番の基本です。それがなければ何も達成することは無理ですので、本当に考えたいことです。 凡事徹底の意識だと思っています。 より一層のう歯治療勧告の啓発が期待されます。放置するとどんな大変なことになる

						か？(学校歯科医による指導強化が必要) ・受診率を上げるためには、生徒だけでなく保護者の意識の啓発も必要だと思います。また、学校生活の忙しさや経済的問題、親の多忙など社会的側面へのアプローチも重要だと思います。	
	体育的学校の活性化	総合スポーツ大会やクラスマッチなどにクラス一丸となって積極的に参加活動させる。	4：90%以上の生徒が積極的に参加できた 3：80%以上の生徒が積極的に参加できた 2：70%以上の生徒が積極的に参加できた 1：70%未満の生徒が積極的に参加できた	3	・肯定的評価をした生徒の割合は86.5%であった。(昨年度：86.7%) ・ほとんどの生徒が肯定的意見を述べている。 ・運営・企画としては、暑熱対策等を考慮し、開催時期や種目設定など多くの課題が残った。生徒の意欲に答え得る環境を整える必要がある。	・学生生活の中で楽しい思い出となりますので積極的に参加して楽しんでほしいものです。 ・生徒の評価と比べて先生方の評価が低く、よりよいあり方を模索しておられるようです。大枠を教員が示し、内容は生徒が企画するなど協働されればと思います。	B
特別活動等	よりよい学校づくりに向けて課題解決しようとする自主的・実践的な態度の育成	生徒会活動・委員会活動の活性化を図る。	4：90%以上の生徒が、生徒会活動が活発と回答 3：80%以上の生徒が、生徒会活動が活発と回答 2：70%以上の生徒が、生徒会活動が活発と回答 1：70%未満の生徒が、生徒会活動が活発と回答	3	・肯定的評価をした生徒の割合は80.1%で昨年度より大きく上昇し、達成度も3に達した。(昨年度：71.4%、達成度2) ・生徒会活動では、文化祭や合唱クラスマッチを中心に、主体的な取組が見られた。 ・生徒総会で上がった要望事項(椅子にテニスボールを付ける)に対し、迅速に対応し、生徒会活動のPRできた。	・良いことだと思います。 ・先生方、生徒ともに評価があがっており、意見が一致しているようです。こうした活動を通して自主性や主体性を身に付け、学習や進路選択につなげていければと思います。	B
	体験的な活動の充実による心身の調和のとれた発達と個性伸長の促進	文武両道を奨励し、学校行事、ボランティア活動、部活動など生徒の自主的な活動の活性化を図る。	4：90%以上の生徒が、体験的な活動に熱心に取り組んだと回答 3：80%以上の生徒が、体験的な活動に熱心に取り組んだと回答 2：70%以上の生徒が、体験的な活動に熱心に取り組んだと回答 1：70%未満の生徒が、体験的な活動に熱心に取り組んだと回答	3	・肯定的評価をした生徒の割合は80.9%であった。(昨年度：81.5%) ・マニュアルに沿って物事を行うだけでなく、生徒一人ひとりが主体的に工夫改善していこうとする姿勢を大切に、伸ばしていきたい。 ・生徒会を中心に地域の少年リーダーズ活動などに積極的に参加し、自主的な活動の活性化が図られている。	・勉強だけでなく、高校生活を有意義なものにしてほしいです。 ・スポーツや文化祭等個々の活動は熱心に参加するが、文武両道をめざすのは、生徒にとってはいささか荷が重いようです。	B
	学力向上のための指導内容・指導方法の工夫と改善	研修会への参加や研究授業などに積極的に取り組み、「主体的で深い学び」を意識した学習活動の充実を図る。	4：90%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 3：80%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 2：70%以上の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答 1：70%未満の生徒が、防高は学力向上に取り組んでいると回答	2	・肯定的評価をした生徒の割合は衛生看護科79%、専攻科67.5%、衛生看護科保護者74.8%、専攻科保護者73.5%であり、昨年度より低下している。専攻科生徒の肯定的評価が低く、指導方法の工夫や改善が急務である。 ・生徒の自発的取組に対する評価は昨年に引き続き低いため、主体的な学びにつながる支援を継続して行っていく。	・良いことだと思います。 ・より一層の指導の工夫・改善が必要と思われるが、より一層の教員同士の意思の疎通を図ることも重要だと思います。 ・専攻科の生徒の学校に対する満足度が低いようです。生徒が疲弊しているのかなあと感じます。	C
衛生看護専攻科	将来看護を担う者として、社会人基礎力を身に付け自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成	身だしなみ指導・交通安全指導などを継続するとともに、時間厳守の徹底を図る。身だしなみやマナーの指導、規範意識を高める指導を継続し、社会人基礎力を身に付けられるようにする。	4：90%以上の生徒が、社会人基礎力の育成に向けた指導が十分に行われていると回答 3：80%以上の生徒が、社会人基礎力の育成に向けた指導が十分に行われていると回答 2：70%以上の生徒が、社会人基礎力の育成に向けた指導が十分に行われていると回答 1：70%未満の生徒が、社会人基礎力の育成に向けた指導が十分に行われていると回答	3	・肯定的評価をした生徒の割合は衛生看護科93.2%、専攻科80.0%、衛生看護科保護者92.8%、専攻科保護者79.4%であった。 ・ほとんどの生徒は、規範意識が高く主体的に行動できているが、継続的に指導しなければならない生徒もいる。 ・学校生活以外での交通事故(自動車運転中)が2件発生している。	・良く守られていると思います。 ・具体的な事柄であれば、自己評価も高く規範意識も高いようです。	B
	学びの質を高める進路指導 生徒が将来を主体的に考え活動できる進路指導	進路講演会などを通して、適切な内容の情報提供に努め、進路意識を高める。 卒業生講話・就職ガイダンスなどを通して、主体的に進路を選択できる	4：90%以上の生徒が、卒業生講話や就職ガイダンス等が役立っていると回答 3：80%以上の生徒が、卒業生講話や就職ガイダンス等が役立っていると回答 2：70%以上の生徒が、卒業生講話や就職ガイダンス等が役立っていると回答	2	・肯定的評価をした生徒の割合は衛生看護科77.0%、専攻科72.1%、衛生看護科保護者74.5%、専攻科保護者76.3%と、昨年度よりやや低下している。 ・就職活動ガイダンスや看護師国家試験ガイダンスは生徒・保護者からも高い評価を得ており、今後も主体的な進路選択の支援のために継続していく。 ・第1希望の就職先への内定が困難なケ	・自分の将来の進路を決めることが多いので、すぐに相談できる状態であってほしいと思います。 ・学習に対する不安があるのでしょうか？教員と生徒との信頼関係がベースにあれば	C

		ようにする。	1:70%未満の生徒が、卒業生講話や就職ガイダンスが役立っていると回答	<ul style="list-style-type: none"> ・一歩が増えてきていることや就職試験の時期の早期化に対応するため、就職試験選考講座を取り入れていく。 ・実際に医療現場で活躍している卒業生を招いての卒業生講演会は、進路選択の意識付けにも効果的であった。 	と思います。			
学校運営	学校行事におけるPTAとの連携・協力体制の強化	PTA活動への参加を広く呼びかけるとともに、文書、HP等を利用して学校行事の周知を図る。	4:90%以上の保護者が、学校と家庭の連携がうまくいっていると回答 3:80%以上の保護者が、学校と家庭の連携がうまくいっていると回答 2:70%以上の保護者が、学校と家庭の連携がうまくいっていると回答 1:70%未満の保護者が、学校と家庭の連携がうまくいっていると回答	3	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価をした保護者の割合は87.2%であった。(参考:昨年度:88.7%) ・若干数値ポイントは下がっているが、学校行事等の案内について、プリント配布だけでなく、ホームページ掲載も行うなど、重ねて情報発信を行っている成果と思われる。 ・情報発信等は行っているが、実際の保護者の参加率がなかなか向上していない点が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなことだと思えます。 ・先生方の自己評価が低いように感じます。生徒や保護者はそれほど不満に思っていないようです。保護者の参加率を上げるためには内容や日程の工夫がいると思えます。 	B	
	情報発信の工夫と充実	アンケート等を利用して、必要とされる情報を分析してHP運営に活かす。防高メール配信の活用方法を学科・学年・分掌の側面から検討する。	4:90%以上の保護者が、学校Webページの更新頻度や内容は適切であると回答 3:80%以上の保護者が、学校Webページの更新頻度や内容は適切であると回答 2:70%以上の保護者が、学校Webページの更新頻度や内容は適切であると回答 1:70%未満の保護者が、学校Webページの更新頻度や内容は適切であると回答	3	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価をした保護者の割合は83.5%(参考:昨年度:86.8%)であり、HP閲覧の奨励を進めて行くことが大切である。例年になくご意見が少なく、それも緊急メール・緊急掲示の在り方というよりも、緊急情報の発信の連絡時刻に関するものであった。決定時刻の繰り上げがこれ以上不可能である点をご理解いただけるよう工夫したい。なお、生徒からの評価は、85.2%と昨年度より0.5%向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方、生徒、保護者の評価が一致しており、今後ますます必要とされる分野だと思えます。 	B	
業務改善	学校の組織等				<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価をした教職員の割合は54.8%であり、7ポイント減少した。(昨年度:教職員61.8%) ・各学年主任と進路指導部長との情報交換を週1回実施し、学年と分掌間、学年間の連携を図っている。 ・教育相談は、分掌の学年担当者が窓口となり、学年、教育相談部、SCが連携して問題解決に当たっている。 ・各分掌で、学年団との連携を図ってはいるものの、各種業務の中、学年会等の時間がなかなか確保できない状況が続いている。 ・今後も一層の業務の見直し・効率化を検討し、情報共有・共通理解を進めるための時間を確保していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務をよりよくするためには多くの問題が出てくると思われる。難しい事項だと思えます。 ・一層の業務見直し・効率化を期待したいと思えます。 	D	
	校務の円滑な運営、組織力の向上	各種業務について、組織的な対応、取組を一層推進し、組織力の向上を図る。	4:90%以上の教職員が、業務の実施に当たって学年と分掌の連携がうまく図られていると回答 3:80%以上の教職員が、業務の実施に当たって学年と分掌の連携がうまく図られていると回答 2:70%以上の教職員が、業務の実施に当たって学年と分掌の連携がうまく図られていると回答 1:70%未満の教職員が、業務の実施に当たって学年と分掌の連携がうまく図られていると回答	1				
	日常的な業務				<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価をした教職員の割合は30.6%で、1.2ポイント増加した。(昨年度:教職員29.4%) ・一部ではあるが、会議の回数削減、構成員の削減、時間短縮等が図られた。 ・昨夏以降のインターネット環境の不具合やWindows10へのバージョンアップ時に見られたパソコンの不具合等により、業務の効率化を体感できなかった。 ・業務の削減、見直しによる業務の効率化、役割分担の変更による業務量の平準化など、様々な観点から工夫、改善を徹底していく必要がある。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方には大切な問題と思われれます。 ・非常に困難な問題と思えますが、多くの教職員が効率化を実感できる工夫・改善を期待します。 ・業務の見直し等を管理職のみで行うのではなく、教職員の側の自発的な取組として行われればと思えます。 	D
	業務の見直し、改善による効率化の推進	定例的な様々な業務をより効率的に推進するため、スリム化も含めて見直し、工夫改善を行う。	4:90%以上の教職員が、業務の効率化に向けて工夫、改善が行われていると回答 3:80%以上の教職員が、業務の効率化に向けて工夫、改善が行われていると回答 2:70%以上の教職員が、業務の効率化に向けて工夫、改善が行われていると回答 1:70%未満の教職員が、業務の効率化に向けて工夫、改善が行われていると回答	1				
勤務状況					<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人当たりの時間外業務従事時間は、12月末までの平均で一月当たり50時間28分であり、昨年度より約7%増加した。(昨年度:47時間05分) ・今年度、新たに学校閉庁日を実施、また、ノー残業デーや最終退校時刻の設定等による業務時間の削減に努めたものの削減に結びつかなかった。 ・平素から早めの帰宅を促す声かけを行うとともに、部活動においては週に1日以上以上の休養日(月に1回以上は土日に)を設けることとしているが、なかなか時間外業務従事時間を減らすことは難しい。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい問題ですが、時間外業務削減を期待します。 ・”仕事に追われる”という感覚と”積極的に取り組んでいく”という感覚の二つの視点がありますが、教員が主体的に勤務できる環境を作ることによって改善されればと思えます。 	D

6 学校評価総括（取組の成果と課題）

【学習指導】

- 進路ガイダンスや個人面談、オープンキャンパスへの参加、講演会の開催等は、自発的学習への動機付けとして一定の成果があった。また、「進路手帳」の活用により、自身の学習状況の振り返りを習慣化できている生徒もいるが、自発的な家庭学習時間をさらに増やしていくことが大きな課題である。
- 新教育課程の先行実施として、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善に取り組んでいる。一部の教科や科目、あるいは一部の先生にとどまらず、学校全体で取り組んでいくことが課題である。
- 総合的な学習の時間やLHRでの図書室の利用は昨年度並みであった。今後は、学習活動での取組も含めて読書活動の啓発に努め、貸出数を昨年度並みに増やしていきたい。

【生徒指導】

- 継続課題である ①スマートフォン等におけるSNSの適切な利用、②交通事故防止と正しいマナーの徹底、③身だしなみ指導 は、随分改善されたがまだ課題を残している。粘り強く、繰り返し指導をしていく必要がある。
- 年3回の生活アンケートや、年5回行う担任からの情報提供をもとに教育相談部会を開き、状況把握や問題解決に向けた話し合いを行った。特にいじめの早期発見、早期解決を進めるため、教育相談部と学年団が連携し、人間関係のトラブルへは早期に複数の生徒からの聞き取りを実施する等、いじめを絶対に許さない雰囲気づくりを継続することが重要である。
また、深刻な問題が発覚した場合は管理職を含めた委員会を開き、関係者で情報を共有し、対策を話し合った。早期発見、早期対応が重要である。
- スクールカウンセラー（SC）からの専門的で具体的な助言により問題解決に至ったことも多い。さらに、生徒、保護者、教職員にSCをより身近に感じ、SCの重要性を知ってもらうことが大切である。

【進路指導】

- 各手段による進路情報の提供に関しては、時期と内容及びその方法について、各学年の生徒の実情を考慮しつつ、柔軟に対応できている。また、進路指導室への来室生徒数も増えている。自ら必要な情報を収集する姿勢をもつ生徒が増え、クラスや学年に好影響を与えている。
- 学習方法改善の情報源となる模試検討会議の内容を各学年担当者が共通認識のもと共有し、それぞれの指導の場面で活用している。これらの情報を生徒が効率よく吸収・活用できるように、進路手帳活用やICT、ネット環境の利用など、提供された情報の整理や活用の手法の指導を検討していくことが重要である。

【健康教育】

- 生徒の健康意識を高めるための健康教育や保健指導を継続して行ってきたことが、生活習慣の改善や受診率の向上につながってきている。また、生徒保健委員の中には、健康・安全に対して意識の高い生徒も増えてきており、委員会活動を通して全校生徒にもつなげていきたい。

【特別活動等】

- 「自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成」を目標に取り組み、生徒会を中心に、生徒の自主性を重んじて「チャレンジさせる」のスタンスで指導した。『生徒会活動が活発に行われている』の項目については、昨年度に比べ、教員、生徒、保護者ともに肯定的評価のポイントが大きく上昇した。生徒会の活動をうまくPRでき高評価につながっていると思われる。しかし、『学校行事が活発に行われている』の項目については、昨年度より肯定的評価のポイントが軒並み下がっており、生徒が学校行事に積極的に取り組む意識を高めるとともに、自分たちで学校行事を創り上げていくという自主的・実践的な態度を育む必要性を感じている。

【学校運営】

- PTA研修会では、役員だけでなく評議員の方々にも参加・協力を求め、PTA活動を広める努力をした。
- PTA評議員会やPTA総会に合わせて様々な講演会を開催し、保護者の方々に有益な情報を提供できるよう努めている。今後も保護者と共に学ぶ姿勢を大切に、保護者の方々がより参加しやすい環境づくりを進める必要がある。
- 学校行事等の案内をホームページ等でお知らせする取組が定着しつつある。
- HPについては、従前のシステムのまま運営し、更新を頻繁に行った。予算措置等の無い状況でのシステムの堅牢性を考慮すれば、現状がベストと考えられる。迅速な、緊急メール(防高メール)の発信については、分掌・学科・学年間の連携を向上させれば若干の時間の短縮は可能と考えられる。

【衛生看護専攻科】

- 低学年時より、学年に応じて看護師国家試験を見据えた朝学習や授業、課題を取り入れている。生徒の主体的な学びを支援するために、学年の特性を踏まえた教材の工夫が必要である。学習指導に当たっては、担当教員間で共通理解を図り、学習と臨地実習・学内演習を結び付けて考えられるよう意識しているが、不十分な点が多かった。教員相互の授業参観や意見交換などを行い、教員のスキルアップを図る必要がある。専門科目の学習においては、ICTを活用し、画像や動画の視聴、グループワークや発表機会を設けるなど積極的に行うことで、生徒の興味関心は高まっているが、生徒自身の取組み姿勢に対する評価は低いと、引き続き検討が必要である。
- 実習病院への就職は増加傾向であるが、今年度、約半数の生徒は県外就職である。卒業生との交流を今後も継続し、県内への就職を推奨していく。就職試験の時期の早まり、募集・採用人数の減少により、第1希望への就職が困難な場合が増加している。低学年時よりキャリアビジョンをもち、具体的に行動できるような対策が必要である。
- 心身の不調による休学や進路変更は若干名ある。専攻科での学習内容の難しさや進度の速さへの戸惑い、専門職業人として求められる資質や適性など、進学して直面することも多い。高校課程からモチベーションを維持し、スムーズに進学できるよう様々な取組を行っているが、進路変更希望の場合には生徒一人ひとりの希望や適性に合った進路実現ができるようサポートしていくことが必要である。本人・保護者との連携もしっかり図っていく。
- 社会人基礎力の育成に向け、学習活動（臨地実習を含む）や特別活動を通して指導を継続しているが、常に問題意識をもって自発的に課題に取り組み、問題解決に向けた思考を展開し、感受性を働かせながら周囲の人と協同するなど、今後も継続して指導することが必要である。

【業務改善】

- 各分掌と学年団の連絡調整等の連携は改善されつつあるが、協働体制のもとでの組織的な対応という点で十分とは言えないところがある。各分掌や各学年において、業務内容や分担の見直し、共通理解や情報共有を一層促進し、教職員全体の組織力の強化を図っていく必要がある。
- 会議の回数削減や会議構成員の削減など弾力的に見直しが可能なところは進めていったものの、今年度からの新たな業務等が加わることもあり、教職員は業務の軽減や効率化が実感できない状況にある。生徒に向き合う時間を十分確保するとともに、教員の心身の健康を保持するためにも、より一層の業務の見直し、工夫改善を進める必要がある。

○平素から早めの帰宅を促す声かけを行うとともに、面談等の機会を捉えて意識啓発を行っているが、なかなか時間外業務従事時間を減らすことは難しい。週休日に部活動指導を行う教員は、それだけで時間外業務が長時間発生しており、特に大会の多いシーズンは、週休日の活動が長時間に及んでいる。今年度も、各部活動とも週1日以上以上の休養日（月に1回以上は土日に）を設けることとしたが、時間外業務従事時間の大幅な削減にはつながらなかった。今後も、部活動については、生徒への影響も踏まえ、休養日、活動時間、外部との連携等さらに検討する必要がある。

7 次年度への改善策

【学習指導】

- 総合的な学習の時間でのキャリア教育の充実を図り、個人面談等で個々の生徒の進路目標を把握し、生徒の自発的学習への意欲を喚起していきたい。また、「進路手帳」の積極的な活用により、自身の学習状況の振り返りや短期・長期の学習計画の策定を習慣化し、自発的な家庭学習に結び付けていきたい。
- 授業公開、生徒への授業アンケート、「主体的で深い学び」に関する研修会への参加等を通して、さらなる授業改善を図っていきたい。また、次期学習指導要領の内容や大学入試制度の動向等も踏まえながら、新教育課程の研究を進めていきたい。
- 図書情報の積極的な発信をさらに充実させ、学習活動での機会も含めて、読書活動の活性化を推進していきたい。

【生徒指導】

- 「自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成」の目標は引き続き掲げていく。
- 継続課題である ①スマートフォン等におけるSNSの適切な利用、②交通事故防止と正しいマナーの徹底、③身だしなみ指導 は根気強く繰り返し指導していく。また、安心安全な生活が送れるよう、危険を予測する力を身に付けさせたい。
- 生徒間における互いを尊重する意識の高揚を図り、「いじめやからかいを絶対に許さない」という雰囲気づくりのための啓発を継続する。
- 担任、養護教諭との情報交換を常に行うことで生徒把握に努める。広い観点から生徒のことを考えられるように、各学年、各分掌との連携を深める。
- 生活アンケートや担任からの情報提供などにより、問題の早期発見、早期対応に努める。問題が生じた場合には、速やかに部会、委員会を開く。また、スクールカウンセラー（SC）をより身近に感じられるように情報発信に努め、生徒、保護者、教職員が気軽にSCに相談できるように相談体制を充実させる。

【進路指導】

- 与えられた情報から、自らに必要な情報を選択し、また情報が不足する場合は自らで情報を収集する態度を育てるため、進路指導室等の校内の情報源やICTなどの情報収集手段の活用方法に関する指導をさらに充実させる。また、情報から分析された自らの進路目標に向けての必要な学習内容や学習方法などについて、自ら試行錯誤しながら教員に質問するなど主体的に取り組むことの指導も充実させる。さらに、大学入学共通テストをはじめとする新たな枠組みでの入試と、大学・社会から求められる力の育成に向けて、校内体制と校内環境の整備に取り組む。

【健康教育】

- 生徒が抱えている心身の健康課題をより正確に把握し、課題解決につながる健康教育の充実を図りたい。また、生徒の健康と安全を守るためには、保護者の理解と協力が必要であり、保護者への情報発信にも努めたい。

【特別活動等】

- 来年度も文化祭や合唱クラスマッチ等の学校行事を生徒会中心に行う予定であるが、全校生徒の学校行事に対する積極的な姿勢を引き出すために、本年度実施した学校行事の反省を踏まえ、各係で行事の内容を精査し、生徒の主体的な活動の場として充実できるように改善を図りたい。生徒会や各種委員会におけるリーダーの育成が必要ではあるが、クラス運営や部活動とのバランスもあるため、リーダーの資質能力をもつ生徒の適材適所な配置について、クラス担任や部顧問と調整を図りながら人選を進める努力をしたい。

【学校運営】

- PTA総会への参加率が、例年、低迷している。次年度は、従来の平日開催を土曜日開催に変更し、少しでも保護者が参加しやすい日程を設けることを検討している。併せて学級懇談等の内容も充実させることで、保護者の積極的参加を呼びかけていきたい。
- Windows7のサポート切れに対する、校内の各種システムの対応準備が主となるため、HPの大きな変更は計画できないが、サポート切れに対する、対応準備の流れの中でHPのCMSのバージョンアップが必要となる可能性がある。

【衛生看護専攻科】

- 生徒の進路実現に向けて看護師国家試験教員指導対策セミナーなどに積極的に参加し、動向把握と教員の指導力向上を図っていく。併せて、効果的な学習指導ができるよう生徒理解の研修等に積極的に参加する。生徒の主体的な学習を支援するために、教材や課題の研究、評価方法について改善を図るとともに、ICT活用の充実を図る。
- 卒業生講話やガイダンス、就職試験選考講座の実施等、進路指導の取組は引き続き継続し、希望進路の実現をめざすとともに、県内就職者の増加をめざす。
- 生徒・保護者・スクールカウンセラーや教員との連携を図り、個人の希望に沿った進路実現ができるよう指導していく。また、高校課程からスムーズに専攻科への進学ができるよう支援していく。
- 社会人基礎力の能力要素（12項目）について、より具体的に指導計画に組み込んでいく。就職後を意識した指導の充実を図る。

【業務改善】

- 管理職と教職員の意思疎通を一層促進するとともに、全教職員が率直に議論し、学校改善に向けて組織的に協働する体制づくりや雰囲気づくりを推進する。
- 学校評価アンケート等を踏まえ、分掌の各業務の見直しや改善を進めるとともに、引き続き、分掌と学年、学年間、分掌間の一層の情報共有、連携強化に取り組む。
- 各分掌や学年、部活動において、役割分担をすることにより、各教員の業務の平準化を図る。
- 日常業務の効率化を進めるとともに、継続的な声かけ等による意識啓発や、部活動の計画的な運営も十分意識し、時間外業務従事時間の削減に努める。